

幕末維新期の激動の時代。最も輝いていた佐賀藩、そして先人たち。佐賀城本丸歴史館は、天保期の佐賀城本丸御殿の遺構を保護しながら復元した施設で、2,500平方メートルの規模を誇ります。日本の近代化に貢献した先人たちの活躍を振り返り、世界的視野で日本の未来を見つめていたその精神に触れ、時代の息歌を感じてください。



【年表】

1869	明治2年 佐賀藩庁として使用。
1874	明治7年 佐賀の乱。本丸は焼失を免れる。佐賀裁判所として使用。
1909	明治42年 赤松尋常小学校が、本丸跡の建物を仮校舎として使用する。
1932	昭和3年 佐賀城の門及続櫓「国重要文化財（建造物）」に指定。
1938	昭和13年 御座間を南水会館として大木公園に移転する。
1958	昭和33年 佐賀県立歴史資料館（仮称）建設着工。
1976	昭和51年 佐賀県立佐賀城本丸歴史館開館。
2001	平成13年 「旧佐賀城本丸御座間跡発掘調査報告書」重要文化財（建造物）に指定。
2004	平成16年 佐賀県立佐賀城本丸歴史館開館。

佐賀城分間御絵図



佐賀県立 佐賀城本丸歴史館  
SAGAMI CASTLE HISTORY MUSEUM  
TEL0952-41-7550 FAX0952-28-0220  
〒840-0041 佐賀市城内2-18-1  
開館時間 / 9:30~18:00  
休館日 / 12/29~1/1 ※臨時休館あり  
駐車場 / あり(無料119台)  
入館料 / 無料

佐賀城本丸歴史館 検索

<https://saga-museum.jp/sagajou/>



JR佐賀駅から市営バス「博物館前」下車徒歩約1分  
佐賀大和LCから約20分



Copyright © 2022 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

その時、日本は佐賀を見ていた。佐賀は世界を見ていた。



佐賀県立 佐賀城本丸歴史館  
SAGAMI CASTLE HISTORY MUSEUM

佐賀藩は、外様各藩の中で八番目の石高三十五万七千石を誇り、二百六十年もの長きにわたり鍋島家が治めました。佐賀城本丸歴史館は、十代藩主鍋島直正が天保九年（一八三〇）に再建した本丸御殿の一部を復元した歴史博物館です。往時の佐賀藩の歴史をどうぞ御体感ください。



- 【御玄関】①
- 【銃の門】②  
天保9年(1838)当時の姿をのこす。佐賀の乱(佐賀戦争)の銃弾跡も刻まれている。国重要文化財
- 【天守台】③  
天守閣は享保11年(1726)に焼失し、以後再建されなかった。
- 【西側土塁石垣】④  
外面が石垣、内面が土塁になっている。
- 【石製縄管と赤石積水路】⑤  
西側土塁石垣の下を潜る水路と、これに続く赤石を用いた当時の水路。石の表面は精密加工している。
- 【南西隅櫓台】⑥  
切り石による「亀甲乱積」という手法で積まれた石垣。
- 【御座間】⑦  
天保期の瓦や柱など当時の部材を使用。色の違いがよくわかる。
- 【建物平面表示】⑧  
かつてあった建物の輪郭などを平面表示。
- 【堀】⑨  
佐賀城を囲む堀で幅40間(約80m)あった。

佐賀城本丸歴史館全景図

三三〇畳の大広間から、世界をアツといわせるエネルギーが生まれました。



SAGA-JO HON-MARU Chronology

1838	天保9年 佐賀城本丸御殿再建。鍋島直正が本丸に入る。
1835	天保6年 佐賀城大火災。二の丸焼失。佐賀藩10代藩主鍋島直正が本丸再建を表明し、建設に着手。藩政改革本格化。
1728	享保13年 二の丸完成。藩政の中心となる。
1726	享保11年 佐賀城大火災。天守閣をはじめ、本丸、二の丸、三の丸焼失。
1611	慶長16年 佐賀城総普請が完成。鍋島勝茂が本丸に入る。
1608	慶長13年 佐賀城総普請始まる。
1573	天正年間(1573-1591) 龍造寺氏の居城。村中城を拡張整備する。

## 佐賀城の変遷と本丸 よみがえる佐賀城

10代藩主鍋島直正が再建した佐賀城本丸御殿を、当時の「佐賀城御本丸差図」や古写真などをもとに、復元しました。佐賀城の特徴や本丸御殿の復元過程を知ることができます。

- 佐賀城本丸御殿 江戸時代の佐賀城 明治・大正・昭和を経て
- よみがえる佐賀城本丸御殿 平成の本丸再建 御殿建築の構造

## 幕末維新期の佐賀 輝きの時代

早くから西洋に目を向け、日本の近代化の礎を築いた幕末の佐賀。絵図などによって輝かしいその時代の息吹を感じることができます。

- 雄藩への道 藩政改革と人づくり 長崎警備と佐賀藩 近代への予兆 黒船来航と佐賀藩の近代化 戊辰戦争と佐賀藩
- 明治維新 明治維新と佐賀藩
- 幕末の唐津藩と対馬藩田代領 幕末の唐津藩 幕末の対馬藩田代領

## 鍋島直正と幕末佐賀藩 近代を拓く

10代藩主鍋島直正が行なった近代化への取組みを4つのテーマに分けて紹介。幕末期の佐賀が名実ともに時代の先端を歩んでいたことを知ることができます。

- 希代の名君 鍋島直正
- 佐賀藩の科学技術 西洋医学の導入 日本初! 鉄製大砲鑄造に成功 佐賀藩の理化学研究所 蒸気船「凌風丸」の建造
- 佐賀から輩出した人物

### 御三家座【ごさんげざ】- ①

当時 小城家・蓮池家・鹿島家の御三家の部屋でした。  
現在 佐賀城の変遷や復元過程を紹介しています。



①御三家座  
佐賀城の変遷と本丸よみがえる佐賀城

展示コーナーA

### 御小書院【ごこしょいん】- ②

特別展示室  
当時 御三家との面談や側近たちとの会議が行なわれました。  
現在 企画展示室。実物資料を展示しています。



②御座間

④御座間

### 屯之間【たまりのま】- ③

当時 家臣が集まり、控えの場所として使われていました。  
現在 休憩、映像コーナー。



③御料理間

⑤御料理間

### 御座間【ござのま】- ④

当時 藩主鍋島直正の居室でした。  
現在 「絨の門」とともに、現存する天保期の建物です。佐賀市重要文化財。

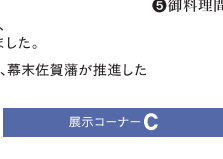


④御座間

⑥御式台

### 御料理間【おりのりま】- ⑤

当時 家臣や藩外の人たちとの対面や、食事の場所として利用されていました。  
現在 10代藩主鍋島直正の人となりや、幕末佐賀藩が推進した科学技術の成果を紹介します。



⑤御座間

展示コーナーC



## 外御書院【そとごしょいん】- ⑧ 一之間・二之間・三之間・四之間・南廊下

当時 一之間、二之間、三之間、四之間と廊下を合わせると320畳の大広間になります。この場所では、幕府からの贈答品やお世継ぎのお披露目など、佐賀藩の公式行事が行なわれていました。天保9年(1838)本丸完成披露のときには、1000人の家臣が集まりました。  
現在 一之間から四之間まで、当時の「大空間」を体感できます。また、この空間を活用してイベントなどに使用しています。



⑧外御書院 (大広間)  
幕末維新期の佐賀 輝きの時代

展示コーナーB